

ふくい社会福祉

ふれあいネットワーク

7
No.371



温故知新 ～一途に社協道～



音が奏でるつながりメッセージ

3兄妹ユニット 一途 さん (鯖江市)

今、世の中には不安なことばかりが起っています。「この先、子ども達の将来はどうなってしまうのだろう。そして、自分達に何が出来るのだろう」と改めて「3人が兄妹として生まれてきた意味」を考えました。

そして、「多くの人に喜んでもらいたい。幸せな気持ちになってもらいたい」という気持ちを追及した結果「音楽」にたどりつきました。音楽は年齢や性別の垣根を越えて人の心に響きますし、幸せにすることもできます。

私たち一途は、「音楽」を通して人と人がつながることの大切さを分かち合い、何より自分を大切にすることを伝えたいと思います。この思いを子どもたちやその父兄にも聞いてもらいたいと、学校でのライブ活動も積極的に行っています。実際にメッセージを同じ空間で分かち合えると親子の絆が深まっていく様子がよくわかります。ある学校の校長先生からは「ライブに参加した親子がみんな手をつないで家へ帰って行きました」と伺ったこともあります。「音楽はみんなの心をひとつにする魔法」なんですよ。

私たち一途の喜びは将来を担う子ども達の笑顔を見ることです。そして、人のつながりや絆を大切にしていきたいと思っています。



略歴

「一途 (いちず)」 <http://1zu.jp/>

2008年4月13日結成。

「3人がひとつになって、ひたむきに自分たちの信じる道を歩き、常に上を目指そう」という気持ちを込めて命名。今も福井県内の学校や福祉施設等で音楽を通じてみんなの心を一つにする公演活動を続けている。

福井県社会福祉協議会創設60周年を啓発するオリジナル曲「Welfare～ふれあって、つながって、輪になって～」も手掛ける。

一途への公演依頼は 0778-62-3793 ヨシダまで



市町社協会長・事務局長のご紹介

地域の第一線で住民の支え合い活動を推進する県内社協の会長、事務局長をご紹介します。

平成23年7月1日現在

No.	市町名	会 長	事務局長
1	福井市	吉 田 敏 貢	白 崎 秀 夫
2	敦賀市	村 上 哲 雄	増 門 昭 彦
3	小浜市 ※	山 岸 博 之	豊 永 真 誠
4	大野市	椿 坂 繁 雄	松 田 勉
5	勝山市	佐 野 瑞 圓	笠 井 みつ子
6	鯖江市	齋 藤 多 久 馬	竹 内 秀 博
7	あわら市	丸 子 要	摩 垣 浄 心
8	越前市	藤 谷 家 也	川 淵 仁 哉
9	坂井市	青 木 甫	副 角 利 幸
10	永平寺町	永 善 信 行	池 田 美 徳
11	池田町	江 端 龍 男	辻 本 悦 男
12	南越前町	齋 藤 市 左 衛 門	細 川 泰 司
13	越前町	宮 崎 泰 治	山 下 三 紀 代
14	美浜町	窪 清 行	秋 山 義 嗣
15	高浜町	内 谷 周 一	山 中 義 和
16	おおい町	川 端 満 治	斉 藤 洋 樹
17	若狭町	塚 本 新 一	田 中 文 明

※小浜市社協は、「会長」を「理事長」に読み替える。



関係団体 会長・副会長のご紹介

県民が、いつまでも“その人らしい生活”を送れるよう、社会のしくみづくりや福祉サービスの質の向上に取り組む福祉関係団体の会長および副会長をご紹介します。

県社協は、こうした多くの関係者と共に良質な福祉サービスを継続的・安定的に提供できる基盤づくりと地域福祉の推進に取り組んでいます。

団 体 名	役 職	氏 名
福井県民生委員児童委員協議会	会 長	清 川 忠 忠
	副 会 長	清 水 武 士
	副 会 長	松 村 信 子
福井県共同募金会	会 長	清 川 忠 忠
	副 会 長	村 上 哲 雄
	副 会 長	梅 田 正 昭
福井県母子寡婦福祉連合会	会 長	島 邦 子
	副 会 長	瞿 曇 隆 子
	副 会 長	岡 崎 和 恵
福井県老人クラブ連合会	副 会 長	平 等 智 恵
	会 長	坂 野 良 治
	副 会 長	林 達 雄
	副 会 長	池 田 禎 夫
	副 会 長	長 谷 川 あ い 子
福井県心身障害児者福祉団体連合会	副 会 長	小 林 豊
	副 会 長	藤 本 澄 子
	会 長	納 村 亮
福井県身体障害者福祉連合会	副 会 長	富 田 毅 矩 男
	副 会 長	志 摩 進
	会 長	吉 村 春 男
福井県聴力障害者福祉協会	副 会 長	夢 田 俊 一
	副 会 長	小 山 尊
	副 会 長	丸 山 継 男
福井県手をつなぐ育成会	会 長	丸 山 継 男
	副 会 長	河 井 秋 男
	理 事 長	栗 田 幸 雄
福井県社会福祉施設経営者協議会	副 理 事 長	藤 田 卓 美
	副 理 事 長	長 谷 川 武 雄
	会 長	白 藤 昭 武
福井県老人福祉施設協議会	副 会 長	豊 永 雄 勝
	副 会 長	田 原 薫
	副 会 長	木 村 洋 子
福井県老人福祉施設協議会	副 会 長	木 村 洋 子
	副 会 長	皆 川 恭 英
	副 会 長	三 田 村 康 行
	副 会 長	岡 山 行 雄
	副 会 長	荒 木 博 文

※名簿は敬称略で掲載しております。

団 体 名	役 職	氏 名
福井県デイサービスセンター協議会	会 長	小 川 弥 仁
	副 会 長	屋 敷 大 作
	副 会 長	山 内 英 弘
福井県地域包括・在宅介護支援センター協議会	会 長	池 端 幸 彦
	副 会 長	吉 田 新 内 治
	副 会 長	加 藤 裕 治
福井県ホームヘルプサービス事業者協議会	会 長	田 原 薫
	副 会 長	山 内 ま ゆ 美
福井県知的障害者福祉協会	会 長	山 崎 宇 左 工 門
	副 会 長	木 間 幸 生
	副 会 長	本 多 奥 右 衛 門
福井県身体障害者児援護施設連絡協議会	会 長	山 口 利 明
	副 会 長	五 十 嵐 研 治 郎
	副 会 長	荒 木 博 文
福井県社会就労センター協議会	会 長	朝 日 正 幸
	副 会 長	大 館 嘉 昭
	副 会 長	岡 田 政 則
福井県児童養護施設連絡協議会	副 会 長	嶋 田 忠 次
	副 会 長	木 越 直 昭
	副 会 長	渡 辺 一 幸
福井県社会福祉協議会保育部会	部 会 長	澤 田 夏 彦
	管 理 会 会 長	細 田 貴 晴
	管 理 会 副 会 長	藤 光 真
	管 理 会 副 会 長	前 川 徹
福井県民間保育園連盟	会 長	竹 内 文 憲
	副 会 長	澤 田 夏 彦
	副 会 長	玉 前 晃
	副 会 長	藤 光 真
	副 会 長	飛 山 文 子
福井県保育士会	副 会 長	山 本 聖 三
	副 会 長	山 口 恵 子
福井県セルブ振興センター	副 会 長	高 田 清 子
	副 会 長	平 木 美 紀 子
	理 事 長	山 崎 宇 左 工 門
	副 理 事 長	下 中 登

平成23年7月1日現在

特集！「ともに生きる豊かな福祉社会をめざして」

～全社協 福祉ビジョン2011～

現在、福祉のあらゆる分野に大きな改革の波が押し寄せ、地域主権、規制・制度改革等の厳しい動きがあります。また、各福祉分野では、子ども・子育て新システム、介護保険関係、障がい者制度改革、地域包括システムなど、社会保障制度の根幹が議論されており。

このような中、新たな福祉課題解決への決意として、全国社会福祉協議会は昨年12月28日、政策提言「全社協福祉ビジョン2011」～ともに生きる豊かな福祉社会をめざして～を取りまとめました。

この福祉ビジョンは、全社協・政策委員会を構成する社会福祉法人や社協、民生・児童委員、老人クラブ等の福祉団体など18組織の合意で取りまとめられたものです。

無縁社会における貧困や虐待、孤立死、自殺、ニートなど既存の社会保障・福祉制度による対応では解決できない新たな課題に対する、今後の行動方針を示しており、政策委員会を構成する18組織は、本ビジョンの具体化に向けた取り組みを進めることを申し合わせました。

本県における福祉関係者において

も、社会福祉法の理念を再確認し、「行動方針」に示された「地域におけるセーフティネットの仕組みを強化」することへ協働して新しい福祉課題・生活課題に向き合い、今後の活動を展開していく必要があります。

平成23年は、県社協創設60周年という節目の年を迎えました。今まで以上に私たち福祉関係者が一致団結して、福井県民が安心して暮らせる「地域の絆」を構築し、地域に暮らす誰もが孤立することなく人間関係を結び、自分らしく生きることができる人・場・機会づくりのため、さらなる推進に向けて取り組んでいきます。

本特集では、全社協福祉ビジョン2011の概要を報告いたしますので、県内の福祉関係者の皆様にご理解をいただくとともに、今後の福祉コミュニティづくりを連携し構築していければと思います。



全社協 福祉ビジョン2011 ～ともに生きる豊かな福祉社会をめざして～

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 政策委員会

私たちのめざす福祉の姿

【求められる変革（現在の社会福祉システムの対応の限界と再構築）】

- 第一は、制度内の福祉サービスの改革です。
- 第二は、制度外の福祉サービス・活動の開発・実施です。
- 第三は、住民・ボランティアの主体的な参加の環境をつくることです。

【めざす福祉の姿】

- ① 地域社会のあらゆる構成員が社会福祉の担い手として、それぞれの役割を果たし、連携・協働する体制がある。
- ② 要援助者のニーズに確実に対応する専門的援助が制度内のサービスで十分に用意されている。対応できないニーズには制度外の福祉サービス・活動の開発・実践が行われている。
- ③ ライフステージを経ていく中で生じるさまざまなニーズ、リスクに的確に対応する支援として福祉サービス・活動が用意されている。特に自立生活が困難な人には、権利擁護の仕組みが用意されている。
- ④ 各福祉サービス・活動が互いに連携・協働し、要援助者と周囲との関係を維持、再構築しながら実施されている。さらに、制度外の福祉サービス・活動をまちづくり、地域社会づくりと連動して実施し、要援助者が構成員として受け入れられ、安心して暮らすことのできる地域社会の実現をめざしている。

めざす福祉を実現するために

社会福祉法人、社会福祉協議会については、制度外の福祉サービス・活動に積極的に取り組んでいきたいと考えていきます。社会福祉法人制度は、公的費用を活かす仕組み、また住民の力が集まる仕組みとして機能しており、今後とも、地域の有益な社会資源として活用していただきたいと考えています。また、福祉人材は、依然、不足している状況にあります。社

会的評価・処遇を向上させ、働きやすい環境づくりをすすめることが重要です。

国、都道府県、市町村の役割

市町村のみに任せるのではなく、国・都道府県・市町村が重層的に担うものととらえることが重要です。市町村は、きめ細かく、地域の実情に応じた福祉を展開することが期待され、各地域において福祉課題について住民の理解・共感を得ながら施策を進めていくことが必要です。都道府県は市町村間で格差を生じさせないような支援と調整を、国は、福祉サービスの全国共通の水準設定や先駆的な取り組みの支援を担うことが必要です。

新しい課題に向き合う社会福祉法人等の責任と使命（私たち自身の決意）

- 1) 柔軟に対応できる制度内の福祉サービスの強化、確立
- 2) 制度で対応しにくいニーズに応える福祉サービス・活動の積極的展開
- 3) 市町村単位での相談・調整機能の連携・総合化の仕組みづくり
- 4) 制度改革の働きかけ

政策委員会構成組織

都道府県・指定都市社会福祉協議会、市区町村社会福祉協議会（地域福祉推進委員会）、全国民生委員児童委員連合会、全国社会就労センター協議会、全国身体障害者施設協議会、全国保育協議会、全国保育士会、全国児童養護施設協議会、全国乳児福祉協議会、全国母子生活支援施設協議会、全国福祉医療施設協議会、全国ホームヘルパー協議会、日本福祉施設士会、全国社会福祉施設経営者協議会、障害関係団体連絡協議会、全国厚生事業団体連絡協議会、高齢者保健福祉団体連絡協議会、全国老人クラブ連合会

詳しくは、全社協 HP <http://www.shakyo.or.jp/>

事業報告

平成 22 年度は、「第 3 次ふくい地域福祉プラン 21 (5 か年計画)」の初年度であり、翌年の創設 60 周年も見据えた事業活動を 10 本の戦略課題に基づいて展開した。

福井でのすこやかな暮らしを支えるつながりの輪づくり

〔1〕県民が地域のつながりの輪に主体的に参加する機運をつくる

- 「チャレンジ塾」23 塾 (4 1 2 人)、活動発表 (シニアアート展 1 4 1 点)
- 「高齢者リーダーバンク」個人 1 0 1 名、グループ 35 団体
- 「高齢者一丁推進事業」受講者数 3 7 7 名
- 「第 23 回全国健康福祉祭 (石川大会) 選手派遣」派遣選手 2 0 3 名
- 「ふくい健康長寿祭 2 0 1 0 開催」参加者数 2, 5 3 9 名 (越前市・福井市)
- 「情報誌「福悠人」発行」年 4 回
- 「高齢者ラジオ放送講座」受講者数 1 5 2 名
- 「家庭介護講座 (セナー・巡回)」22 回、



受講者数 3 8 0 名
「介護出前講座」71 回、受講者数 2, 3 2 4 名

《つながりづくりの人材発掘・養成》
「地域コミュニケーションパートナー養成研修」受講者数 1 5 0 名

〔2〕県民を主役にしたつながりの輪を広げる運動をつくる

《つなぐボランテアの輪推進運動》
「推進運動の広報啓発」
「エコキャップアートイベント」応募数 55 点



「サマーボランテア体験」1 5 9 メニュー、参加者数 4 4 5 名
「ボランテア作文コンクール」応募総数 1, 9 1 3 点

「ふくいつながりフォーラム 2 0 1 0」参加者数 5 0 0 名
《福井県まごころ基金による助成》
「民間福祉活動への助成」39 団体、助成額 6 3 2 万円

《地域ぐるみの福祉教育》
「社会福祉協力校の指定」32 校
「地域ぐるみ福祉教育モデル事業」8 市町
《ボランテア・カフェの運営》
「カフェ講座」3 回、受講者数 35 名

《関係機関との連携・協働》

「民生委員活動との協力と支援」
「福井県企業等ボランテア・社会貢献連絡会」
「福井県災害ボランテアセンター連絡会」

福井の福祉活動をけん引する
社協のブランドづくり

〔3〕県内オール福井県社協が協同で地域福祉の戦略をつくる

《社協の「見える化」の推進》
「市町社協会長・事務局長会議」
「市町社協課題解決戦略会議」5 回
「市町社協トップセミナー」
「県市町社協会長の設立」1 月 21 日

《社協ワーカーのスキルアップ》
「社協ワーカー養成研修」3 コース、延受講者数 43 名
「社協ボランテアコーディネーター研修」受講者数 22 名



《地域のセーフティネットづくり》
「災害時社協相互支援実地訓練」県市町社協合同の訓練
「東日本大震災被災地支援活動」社協職員
の派遣 (延派遣者数 55 名)、義援金の拠出 (5 0 0 万円)



〔4〕地域のオンリーワンをめざす市町社協を支える手立てをつくる

《市町社協の経営課題の分析》
「社協強化ステップアップミーティング」5 回
「小地域福祉活動推進分科会」5 回
「社協組織・事業強化分科会」5 回
「社協の法人後見検討会」2 回

福井の福祉を高い専門性で支えるサービスの基盤づくり

〔5〕専門性の高い福祉従事者を育てる仕組みをつくる

《福祉・介護の専門職の育成》
「独自研修」21 コース (54 日)、延受講者数 1, 4 7 8 名
「受託研修」20 コース (1 3 4 日)、延受講者数 2, 1 0 4 名



「介護支援専門員実務研修受講試験」受験者数 9 1 4 名 (合格率 22. 6%)
「介護職員等研修」1 1 4 回、延受講者数 4, 0 1 3 名

《福祉・介護人材の発掘・定着強化》
「介護福祉士修学資金貸付」貸付人数 2 9 名、総額 5, 0 0 0 万円
「福祉・介護人材マッチング支援」移動相談件数 2 9 9 件、事業所訪問数 2 5 3 か所 (1 7 4 日)、窓口相談 43 件
「介護雇用プログラム」介護福祉士採用 46 名、ホームヘルパー 2 級採用 77 名

「ふくい福祉就職フェア」2回、延参加事業所数91か所、延参加者数401名、採用数61名

「地域密着型面接会」4回、参加事業所数82か所、参加者数193名、採用数26名

「ふくしの仕事まるわかり講座」5回、受講者数51名

「無料職業紹介」求人数1,364件、求職数1,212件、紹介数512件、就職数199件

「有資格者現況等調査」調査対象…介護福祉士872名、社会福祉士123名、精神保健福祉士60名（回答率65.2%）



(6) 良質な福祉サービスの提供を支える基盤をつくる

《福祉事業に関する相談支援体制》
「福祉施設経営指導事業」巡回訪問数59
法人、相談件数885件

「各種研修・セミナー」4コース、受講者数249名

《福祉サービスの評価・公表制度》
「介護サービス情報公表」公表事業所数1,913か所、調査事業所数1,805か所

「福祉サービス第三者評価」アンケート調査（受審事業所・未受審事業所数60か所）、評価確定事業所数5か所

「地域密着型サービス外部評価」認知症

高齢者グループホーム数33か所、小規模多機能型居宅介護事業所数39か所

「福利厚生センター」会員交流等企画41メニュー、延参加者数4,555名

「民間社会福祉施設職員退職共済事業」加入447施設、加入者数6,675名

(7) 福祉サービスの利用を通じて自立生活を支える仕組みをつくる

《福祉サービスの苦情解決》
「運営適正化委員会」6回

「苦情受付・相談」51件

《地域での自立生活支援》
「生活福祉資金貸付」貸付件数328件、貸付決定額1億5,242万円

「日常生活自立支援事業」相談件数11,506件、新規契約件数103件（累計件数817件）

《相談・支援機関とのネットワーク》
「社協の法人後見検討分科会」（再掲）

「高齢者専門相談」

「福祉用具・住宅改修出張相談」9事例

元気で信頼される福井県社協づくり

(8) 組織価値を高め、持続性をもった柔軟で堅実な組織基盤をつくる

《予算対策活動》
「生活福祉資金貸付事業」厚生労働大臣、全社協への要望書提出

「県社協の事業活動」県主管課との意見

交換、県への要望

《課題別局内プロジェクトの推進》
「創設60年の実践総括と記念誌編纂（実践総括）」構成員7名、検討回数9回

「創設60周年記念事業の企画立案」構成員12名、検討回数8回

「社内マガジン「びーす」の創刊」構成員12名、検討回数8回

「新たな収益事業の構想化」構成員15名、検討回数8回



(9) 発展志向で対話のある組織環境をつくる

《業務・目標の進行管理、職員育成》
「目標管理システム導入の検討」先進地視察、システムの枠組みづくり

「職員のスキルアップ（外部研修受講）」7メニュー、延受講者数48名

(10) 福祉情報・組織情報の提供で関係者や県民との信頼関係をつくる

《財務・事業活動に関する情報開示》
「各種基金の運営・管理」4基金

「第37回チャリティアート展収益の活用」協賛者数205名（208作品）、文化芸術分野の福祉活動への助成（7団体）、東日本大震災義援金（500万円※再掲）

《福祉情報の提供》
「機関紙「ふくい社会福祉」発行」年10回

「ファクス情報」年20回

「ボランティア・カフェ通信」年12回

「ボランティア・メールマガジン」週1回

「福縁ボランティアネットワークの運営」登録者数238名、アンケート調査（個人97名、施設57か所、団体70か所）

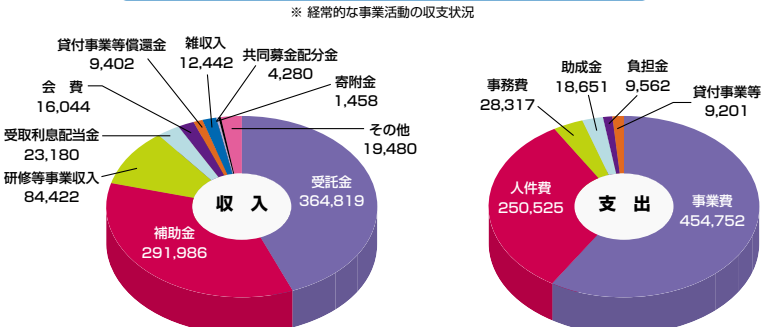
《社会福祉センターの指定管理》
「入居団体連絡会」

「サービス向上委員会」

「福祉体験学習」16回、延参加者数399名

「屋外案内看板の設置」明里橋通への新設

平成22年度収支決算の概要



※会計・経理区分間繰入収支、生活福祉資金等貸付収支（貸付・償還）、民間社会福祉施設職員退職共済会事業収支（退職金支払等）を除く。

異業種交流が、新たな発想や視点をもたらす！

～「キャリアアップのための異業種福祉実践研修」の実施～

利用者へのより質の高いサービス提供（確保）のため、福祉施設職員、とりわけ中堅的立場の職員には、**利用者の障がい等への高度な理解と処遇のための専門的な知識・技術に加え、様々な視点から利用者を捉え、生活の質を高めるために職種間の連携・協働したチームケアなどの実践展開力が求められます。**

本研修は、これらを実現するための方策の一つとして、**自らが属する施設とは異なる施設で、その対象や業務等を見聞し、実際に関わりを持つことで自らの業務や取り組み姿勢等を振り返り、幅広いものの見方・考え方等を深め、キャリアアップを図ることを目的に本年度に新たに創設しました。**

この事業が、県下社会福祉施設の皆さまに有効に活用され、福祉施設を利用する県民への一層のサービス向上が図られることを期待します。

研修アウトライン

【実施期間】

当該年度の6月1日～翌2月末日（9か月）

【実践研修対象者】

県社協の会員である社会福祉施設に従事し、直接利用者への処遇を行う概ね勤続3年以上の相談員、指導員、介護職員、保育士等

【実践研修の内容等】

- 実践研修の具体的な取り組み例
 - ・ 高齢者、障がい者、児童（乳幼児含む）等に対する介護、介助、話し相手、保育
 - ・ カンファレンス等の会議、打合せ
 - ・ レクリエーションや運動会等の行事の運営補助など
- 実践研修の実施施設

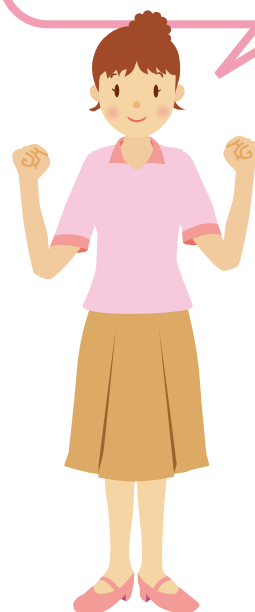
県社協の会員であって本事業に協力する社会福祉施設（高齢者、障がい者、児童）とし、原則として交流対象者が属する施設種別とは異なる施設
- 実践研修の実施期間

連続する概ね5日以内
- 実践研修の時間

1日あたり概ね7～8時間程度（休憩時間含む）

参加希望者の声

- 日常業務に没頭していると、ついつい視野や考え方が狭くなりがちなか、業種も全く異なる他施設の方との交流・意見交換により、刺激を受け、様々なことを学びたいです。
- いつの間にか、施設内の常識、ルールにとらわれ、自分の思考・行動範囲を「自ら」狭くしていることに気づくことがあります。この研修を通して、広い視野を持てるようにしていきたいです。



実践研修の取組み内容

〔例〕

- ・ 高齢者、障がい者、児童（乳幼児含む）等に対する介護、介助、保育
- ・ 高齢者、障がい者、児童等の話し相手
- ・ 散歩の付き添い等、交流の体験
- ・ カンファレンス等の会議、打合せ
- ・ レクリエーションや運動会等の行事の運営補助

※研修受入施設も、引き続き（7月末まで）受付けておりますので、積極的なお申込みをお待ちしております。

本研修の詳細については、福祉サービス支援課（TEL 0776-24-2347）までお問い合わせください。

平成 23 年度福井県介護支援専門員実務研修受講試験のお知らせ

福井県社会福祉協議会では、今年度の介護支援専門員実務研修受講試験を下記のとおり実施します。

1 試験日時	平成23年10月23日(日) 午前10時~12時※ ※終了時間は所有資格等により異なります。
2 試験会場	福井県立大学 福井キャンパス (吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1)
3 受験資格	次の①、②、③のいずれかを満たす方を受験資格を有する方とします。 ① 保健・医療・福祉に関する資格等に基づく業務に5年以上従事していること ② 一定の相談援助業務または介護等の業務に5年以上従事していること ③ 一定の介護等の業務に10年以上従事していること
4 受験申込方法および受付期間	所定の受験申込書および試験案内に示す必要書類を受付期間内に①持参または②郵送により提出してください。 受付期間：平成23年7月25日(月)~8月5日(金) ① 持参の場合 受付時間：午前8時30分~午後5時15分(土、日曜日除く) 受付場所：県社会福祉センター 3階老人談話室 ② 郵送の場合 郵送方法：簡易書留郵便に限ります(受付期間内の消印有効)。
5 試験案内・受験申込書の配布	試験案内および受験申込書は次のとおり配布します。 配布期間：平成23年7月1日(金)~8月5日(金) 配布場所：各市町介護保険担当課、坂井地区介護保険広域連合、各市町社会福祉協議会、県長寿福祉課、各健康福祉センター、県社会福祉センター ※郵送による配布は行いません。
6 合格後	試験合格者を対象に行われる実務研修の修了後に介護支援専門員として登録されます。

なお、詳細については試験案内をご覧ください。福祉の人づくり支援課 (TEL 0776-21-2294) までお問い合わせください。

「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして」

6月5日(日) 大野市において、「第53回福井県保育研究大会」がみだしのテーマのもと開催されました。

最初のプログラムとなった午前の分科会では、専門テーマ別に8つの分科会に分かれて熱心に討議が行われました。

また、午後は保育関係者660名が一堂に会し、式典、越前市保育研究会の研究発表が行われ、続くプログラムでは、「保育における気になる子どもたちへの対応を巡って」と題して、お茶の水女子大学 准教授 青木紀久代 氏の記念講演が行われました。

最後は大会宣言が行われ、保育の質の向上に向けた決意を参加者全員で確認しました。

第53回福井県保育研究大会宣言文

～前文省略～

- 一 私たち保育従事者は、子どもの最善の利益の保障はもとより、家庭や地域と連携し、保育所の利用の如何を問わず、保護者に対する子育て支援に努めます。
- 一 私たち保育従事者は、専門職として常に保育の質の向上を目指すとともに、その取り組みを広く保護者や地域に伝えるよう努めます。
- 一 私たち保育従事者は、保育を通して子育ての楽しさ・食べる楽しさ・子どもの成長の喜びを共有しながら、親も子育て環境づくりに努めます。
- 一 私たち保育従事者は、子どもの尊い命を守り、心身ともに健やかな成長を支える上で必要な保育について、子どものみならず私たち自身も育ち合う仲間として職場内外を問わず積極的に議論し、提案します。

平成二十三年六月五日

第五十三回福井県保育研究大会



分科会でのグループ討議の様子



会場では、東日本大震災の被災保育園への支援のための「保育三団体被災地支援募金」も行われ、18,674円の義援金が集まりました。

寄贈・寄附

誠にありがとうございました。

6月8日
敦賀信用金庫、福井県信用金庫協会 様

- 募 金
330,000円
- 使用済み切手
47.4kg(約331,000枚)
- 書き損じハガキ
43枚

知的障害者の社会啓発運動および自立支援、生きがいづくり支援事業を行っている団体へ



6月21日
社団法人福井県雇用支援協会 様

- 寄付金
756,312円



『つながれボランティアの輪』推進運動

推進運動スローガン

つながれ！ 80万人のボランティアの輪

～県民をつなぐ「おかげさま」と「お互いさま」の輪～

今、私たちにできること



プログラム

たくさんの方々の応募と参加をお待ちしています！



つながることの楽しさを実感しよう！

エコキャップアートコンテスト作品募集中

【エントリー締切】 7月29日(金)

【作品提出日】 11月10・11日(木・金)

捨てればゴミになってしまうペットボトルのキャップを使って、みんなの「つながり」の形をアートにしませんか？

このコンテストで集まったキャップはリサイクルし、その売り上げで海外の子ども達にワクチンを提供するエコキャップ運動に寄付します。

身近なボランティアを通じて、みんなと「つながる」楽しさや喜びを分かち合いましょう！

応募作品は、11月12・13日(土・日)に福井県産業会館にて開催される「つながりフェスタ」で展示され、審査・表彰が行われます。優秀作品には豪華賞品も！

先着
60組
限定！



夏休みにボランティアしよう！

サマーボランティア体験 2011

【期間】 7月20日(水)～9月30日(金)

【対象者】 小学生高学年以上でボランティア活動に関心のある方

【申込先】 お住まいの市町ボランティアセンターまで

福祉施設でのお手伝いや環境保護活動など、豊富な活動メニューの中から興味・関心のあるボランティア活動を選んで体験することができます。この夏、新しいことにチャレンジしてみませんか？



ボランティアについて考えてみよう！

ボランティア作文コンクール

テーマ

- ① ボランティア活動の経験から得たこと・感じたこと
- ② ボランティアについての自分の思い・考えていること

児童・生徒をはじめ広く県民から、ボランティアに関する作文(800字以内)を募集します。優秀な作品は、表彰するとともに福井県ボランティアセンターのホームページで紹介させていただきます。

応募締切
9/30(金)



みんなの気持ちをひとつに！

つながりフェスタ 2011

【期 日】 11月12・13日(土・日)

【会 場】 福井県産業会館

- ① 乙武洋匡氏による講演会
- ② つながりショートムービー作品の発表
- ③ つながりコンサート
- ④ まちづくり企画の公開プレゼンテーションなど

各プログラムの詳細は、ポスターやチラシ、福井県ボランティアセンターのホームページで随時お知らせします。

福井県ボランティアセンター

HP : <http://volunt.f-shakyo.or.jp/>
TEL 0776-24-4987
FAX 0776-24-0041
E-mail volunt@f-shakyo.or.jp